

第6回ワーキンググループ会議

【活動及び展示・窓口 WG】 議事要旨

日時 平成28年12月19日（月） 13:30～15:30

場所 本庁舎2階 21会議室

出席 委員5名、事務局3名、北大4名

議題 「まちづくり」、「機能連携」について

■ 苫小牧版アイデア集の紹介(活動WG)

キーワード「創作環境」「管理運営体制」に関するアイデア

1. DIY 応援部
 - ・ 市民のものづくりをサポートする創作環境を、専用工具などの設備とレクチャーをセットで提供していくアイデアである。
2. 手作り食堂 in 市民プラザ
 - ・ 全国で行われているコミュニティレストランの事例を参考にしながら、市民プラザでも手作り食堂を運営するアイデアである。
3. 見習い親父バンドプロジェクト
 - ・ 一般的に親父バンドというと昔バンドをしていた人がバンド活動を再開するものが多いが、このアイデアは初心者を対象として若手のミュージシャンに指導してもらいながら、親父バンドを結成することで世代間交流を図るアイデアである。
4. ボランティアコーディネーター協会
 - ・ 市内のボランティア活動が活発になっている背景を受け、ボランティアをする市民のモチベーションを高める仕組みづくりを整え、市民ホールでより活発な芸術文化活動へとつなげていくアイデアである。
5. 共にアクション実行委員会
 - ・ 本当の意味での市民主体の施設づくりを目指すために、施設の職員だけではなく市民も参加することで、市民の意見や要望を実行に移していくアイデアである。

補足

- ・ お金を出してでも楽器の演奏やモノづくりを行いたい市民は一定数存在することが考えられる。設備や仕組みを整えることができれば、さらなる文化芸術活動の活発化が見込めるのではないかと。

■ 苫小牧版アイデア集の紹介(展示・窓口WG)

キーワード「情報発信」「居場所・居心地」「雰囲気づくり」に関するアイデア

1. 教えて！子ども特派員
 - ・ 子ども達が取材をすることで情報発信に身近さや新鮮さを付加するアイデアであり、子どもが媒介となることで、市民とプロのアーティストや文化芸術活動に関心のない市民同士など、情報発信を通じた人との交流を目指したアイデアである。
2. 誰でも印刷工房
 - ・ チラシの作成や適切な情報発信を市民が行うために、広告を出すときにデザインをプロが行い、掲示場所を提供することで、市民のよりよい情報発信のための環境を整備していくアイデアである。
3. トワイライトカフェ・プレミアムシート
 - ・ これまで子どもや高齢者の居場所については議論されてきたが、サラリーマンや主婦などの働き世代の居場所に着目したアイデアであり、夕方の2時間限定というようなかたちで働き世代を対象とした特別席を提供するアイデアである。
4. コドモの止まり木
 - ・ 子どもたちの居場所は年齢によって大きく異なることを考慮して、それぞれの年齢に応じた居場所を用意するアイデアである。
5. 魅せる事務室
 - ・ カウンターを利用者側に近づけ、スタッフの勤務環境を市民に開いていくことで、利用者とスタッフの物理的・心理的距離をなくし、市民の居心地をより向上させようというアイデアである。
6. Living Bar
 - ・ コンシェルジュやカウンセラーなど、いつでも迎えてくれるスタッフを通常のスタッフとは別に配置することで、利用者とスタッフの間に顔の見える関係をつくり、よりよい施設づくりにつなげていくアイデアである。

補足

- ・ 「誰でも印刷工房」は、出版物レベルの印刷物を自分では作れない人にとって魅力的だと思われる。さらに、そのまま工房を展示できるようにすればさらにロビーを彩り、賑やかさを付加することもできるかもしれない。

■ 事業アイデアの実現について

苫小牧で行われている演劇・音楽活動

- ・ 苫小牧には専門の先生が指導している市民管弦楽団という音楽団体があり、市民の公募によりメンバーを募集し、活発な活動がなされている。
- ・ 苫小牧には、東高校など演劇が盛んな高校もあるが、現在の活動がまちづくりに貢献できるものかどうかは不明であり、今後まちづくりの観点から現在の活動を見直して

も良いかもしれない。

- まちづくりの観点からいえば、市民にとって身近な題材をもとに脚本を作ることもあり、以前は米軍の飛行機が墜落したところを市民が救助したという過去の事件を取り上げたこともあった。
- 苫小牧出身の脚本家の方もおり、市内で演劇をするための人材は揃っているのかもしれない。今後はそういった方々をまとめ、市内で活動が展開できるようにすると良いように思う。
- 昨年、打楽器のサークルを立ち上げ、今では中学生も大人と一緒に活動に参加してくれるようになってきている。市内のイベントへの参加や発表会の企画など、活発な活動を行っている。
- 最近では金管楽器のグループもできている。オーケストラのような複数の楽器で構成される大規模な団体ではなく、一つの楽器に特化した小規模の団体であることに特徴があり、参加する学生にとっては他校の学生と比較する機会ができるので、良い刺激となっているようだ。
- 教会でゴスペルをしていたこともあったが、一昨年からは牧師の方が代わり、今では行われなくなってしまった。

文化芸術活動への参加の課題

- 文化芸術活動への参加のきっかけとして、例えばプロと一緒に何かできるなど、モチベーションを高める工夫があると良いのではないかと。豊橋市では高校生とプロの脚本家が一緒になって演劇を公演する取組を行っており、オーディションをするほど人気があるそうである。
- 演劇というとステージに立つイメージが強く、自ら手を挙げるとするのはハードルが高いように思う。しかし、演劇といっても演者だけではなく、脚本家や舞台制作など多岐にわたり、裏方であれば立候補する市民もいるのではないかと。有志での活動を展開していくことは難しく、参加の意思を表明する際のハードルをいかに取り除くかが課題だろう。
- 総合芸術と言われているオペラは設備的な問題で実行できないことがあるうえ、多くの人が関わらないとできないものである。そういった活動の規模や分野も考慮する必要がある。
- 市民が進んでまちづくりの企画に参加していくことも重要であるが、企画への参加を通してまちを知るといったこともあるだろう。文化芸術活動をきっかけに結果的にまちづくり活動に参加しているといった仕掛けや工夫があると良い。

身近な文化の継承

- 苫小牧は市外出身の方が多くいる町であり、実家で母親から料理を教わっていない人

も数多くいる。身近な生活の中で、気軽に料理を教わることのできる環境があると良いのではないか。

- ・ コミュニティセンターも含めて、高尚な文化芸術活動だけではなく、家庭料理などの身近な文化を拾い上げていく姿勢は、施設のコンセプトを考へても重要な視点であるように思う。

活動内容と空間の重要性

- ・ 岩内町の祭りで学生が屋外で書道をしていた光景が印象に残っているが、書道は芝生の上ではできないこともあり、活動の内容によっては芝生が不適切な場合もある。活動の内容に応じて場所を選択できるような可能性のある空間づくりをしていきたい。
- ・ どういった活動をどの場所で行うかという視点はまちづくりにおいて非常に重要な視点である。可児市の場合では、広々としたオープンスペースがあったおかげで、施設の活動がまちに広がっていったそう。

■ 苦小牧市が抱える課題について

情報発信の方法

- ・ まちづくりで大切なのは、どのように情報を発信していくかということである。現在皆さんが行っている活動の発信方法について教えていただきたい。
- ・ 情報発信の方法は、学生に対しては直接チラシを渡すことが多い。また、Facebook を活用したり、苦小牧民報に情報を掲載してもらうこともある。
- ・ 以前は広報に市内の様々な情報が掲載されるコーナーがあったのだが、広報の仕組みが変わり廃止になってしまった。そういった経緯もあり、市民への情報発信が十分に行えず、イベントは実施するのだが、市民がその情報を知らないという事態が起きてしまっている。
- ・ 現在の情報発信媒体の中で最も市民に活用されているのは広報であろう。Facebook も活用していくべきだが、広報のような誰もが利用できる媒体も必要であろう。
- ・ 苦小牧民報のように、苦小牧市内のイベントを、市民が特派員として取材するという形の情報発信が考えられるのではないか。

指定管理者間の連携不足

- ・ 現在、指定管理者同士の連携が不十分であり、それぞれの施設が個別に活動を展開している状態である。指定管理者間の連携を強化していく方法や、新たな組織を設立するなどの方法で、市内にある施設の情報が一度に把握できるようになると良い。
- ・ 同じ教育委員会の施設でも、管理者が異なるために連携がとれていないということが起こっている。しかし、市民に集まってもらうには、施設間連携は必要なことであり、館長同士が連携の必要性を認識しなければならない。

苫小牧における地域間交流

- ・ 苫小牧は細長い地形であることから、地域ごとでの活動が展開されてきた歴史がある。しかし、今日のデジタル技術の発達などによって、地形的な問題は以前に比べると深刻ではなくなっている。市内全体での活動を一層強化していくべきである。(今田)
- ・ 各地域の中だけでみんな満足している節があるように思う。地域内のつながりも地域間のつながりも重視していくべきである。
- ・ 現在、苫小牧で唯一地域の枠を超えて行われている市民文化祭では毎年5~6,000人が参加している。今までは文化の日に行っていたが、日程が変わったためか、今では年々参加者は減少している。

イベントと公共交通機関

- ・ 苫小牧では情報発信が上手く行えたとしても、車が無ければ移動できないまちであり、公共交通網の整備は重要な問題であるように思われる。
- ・ 一度演奏会を開く際、臨時バスを出したことがあるが、市民からは大変好評だった。公共交通機関のチケットと演奏会のチケットをセットにするなどのアイデアが考えられるのではないか。
- ・ 以前、演奏会のチケットを1,500円とし、その中に1,000円分の入場券と500円分のバスの運賃代も組み込んで発売したところ多くの人々が来場してくれた。この方法は、イベントの運営を考えても採算が取れる仕組みであり、新しい施設でも是非実施すべきであろう。
- ・ 現在、交通アクセスで困っていることは、イベント終了後における復路の交通手段がないことである。また、駐車場は大規模なものを整備したとしても結局不足する事態になることが考えられる。駐車台数ばかりに気をとられるのではなく、バスなどの公共交通を強化していく視点が重要だろう。

■ ワーキンググループ会議での議論について

今後の議論の方向性

- ・ 現状のような話し合いを続けていけば、どのような方向に進めていくかが不明瞭であり、全ての事業アイデアを載せるというやり方では、議論の方向性を見失うという懸念がある。
- ・ 議論してきたものは、事業体系図という形でまとめ、基本計画書に掲載するものであり、事業体系図の検討が今年度の大きな成果であると認識している。
- ・ 現状の事業方針は、市が以前策定した文化芸術振興推進計画の内容と似通っているように思われる。これらをどのように具体的に発展させ、施設に絡めた議論をするかを検討する必要があるのではないか。

- これまで検討されてきた事業アイデアが具体的な活動事業といえる。これまで検討してきたアイデアは単なる夢物語ではなく、実際に実現に向けた検討を今後進めていく。これまでのワーキンググループ会議で熱心に議論してきたという事実は、市にとっては良い意味でのプレッシャーになっているのではないかと思う。
- 美術館建設の際にも要望やアイデアは膨大に集まったが、予算の中で実現できるものとできないものを仕分けていった。全てのアイデアを実現するのは困難であり、市としては方向性を早急に定め、実施すべきアイデアを判断する必要があるのではないか。
- 事業アイデアを実現できるか否かの議論は当然行うべき議論であるが、現在はそれらを一旦度外視して市民が実施したい事業や実行すべき事業を検討している段階である。実際に実施していくアイデアの取捨選択は今後検討しなければならない議題だと認識している。

ハードに関する議論の時期

- 事業アイデアを誰が、どのように達成していくのかについての検討を早い時期から検討していきたいが、一方でそれらの検討は、敷地や規模などの具体的な事項が決まらなないと検討できない側面もある。基本的な運営のあり方や実施方法についての検討は来年度から進めいくことを想定している。
- 事業アイデアを具体化させても、方針や運営主体を後から決めるのでは、実際のところ実現できないという事態も考えられる。運営主体を先に決定させてから実施の検討を進めていった方が良いのではないか。
- 永続的に同じ運営主体が施設を運営するということは考えにくく、運営主体が変わっても共有できる理念を作ることが重要である。現在検討している事業体系図は、まさに運営に関する理念をまとめているものである。運営組織を立ち上げるべき時期やタイミングについてはワーキンググループ会議でも意見を出していただき、協議していきたい。
- ハード面の整備は一度実施してしまえばそれで済む話であり、理解もしやすい。しかし、実際に物事を動かしていく運営や活動事業についてはそう簡単に決められる話ではないだろう。現在行っている検討は非常に重要な議論であると認識している。
- 現状の施設状況から建てるべき規模や機能を割り出すことは簡単で、それらの検討に1年も必要だとは思えない。どのような意図で計画期間を長期間なものにしているのか教えていただきたい。
- 設計者・企画者の選定は実際には何年もかかるものであり、今はそれらの選定の判断基準を検討している時期である。また、今年度ワーキンググループ会議で検討してきた事業アイデアは全国的にみても非常に充実しており、委員の方々には自信を持っていただきたい。

検討中の事項

- 今回のプロジェクトは、可児市の施設のあり方を参考にしており、フォーラムでも衛館長にお話をいただいた。可児市のような取組を予算の兼ね合いがある中でどこまで実現できるか、社会的包摂を实践するためにはどのような運営形態が最適なのか等を現在検討している段階である。
- 事業アイデアは確かに実施の確実性が判断しにくく、成果が目に見えてこない側面もあるので、もどかしい時期ではあるように思う。しかし、これまでの検討の積上げは決して無駄ではなく、今後の検討のためにおいては非常に有意義であったと認識している。
- 現在、来年度のワーキンググループの体制や検討の進め方については事務局で調整中であり、今後は委員の方々の意見も聞きながら協議していきたい。

■ 今後のスケジュール

次 回（第7回）：2月22日（水）13:30～@市役所2階21会議室